

【公報種別】実用新案法第 14 条の 2 の規定による訂正明細書等の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年3月28日(2013.3.28)

【登録番号】実用新案登録第3174732号(U3174732)

【訂正の登録日】平成25年1月10日(2013.1.10)

【登録公報発行日】平成24年4月5日(2012.4.5)

【出願番号】実願2012-291(U2012-291)

【国際特許分類】

A 4 7 G 25/10 (2006.01)

【F I】

A 4 7 G 25/10

【訂正書】

【提出日】平成24年11月22日(2012.11.22)

【訂正の目的】実用新案登録請求の範囲の減縮等

【訂正の内容】

【考案の詳細な説明】

【考案の名称】ヘルメット用壁掛けフック

【技術分野】

【0001】

本考案は、ヘルメット（特にフルフェイス型のヘルメット）を壁に掛けるためのフックに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、オートバイ用のヘルメット（特にフルフェイス型のヘルメット）を使用しない時は、棚や台の上に置いていたり、床に置いていたりしていた。

【0003】

また、オートバイ用品の販売店などでは、棚や台を設けてその上にヘルメットを陳列したり、壁にフックを取り付けてヘルメットの正面が下を向くような状態で係止し陳列していた。

【0004】

しかしながら、使用しないヘルメットは以外に大きく、棚や台に置いた場合は棚や台の上を占領してしまうことがあり、また床に置いた場合にも躓いたり、ぶつかったりする危険があるものであった。

【0005】

また、販売店などでは棚や台等ではヘルメットを陳列するスペースが限られるため、上述のように壁にフックを取り付けてヘルメットを係止する方法で陳列しているが、ヘルメットの正面が下を向く状態での陳列となり、天井近くに陳列されて下から見上げる場合は見やすいが、視線近くにある場合は、下から覗き込まなければ正面からのデザインを見ることができないものであった。

【0006】

更に、このような陳列では、ヘルメットを手にとって吟味した後、元に戻すにも係止のバランスを取ることが難しく、実際に消費者が手にとって比べるには面倒なものであった。

【0007】

また、特許文献 1 に示すようなヘルメットスタンドがあるが、特許文献 1 に示すヘルメットスタンドは、棚や台の上に置いて、そのヘルメットスタンドにヘルメットを被せて陳列するもので、棚や台にヘルメットを直置きする場合とヘルメットを置くことが出来る数に変わりはない。

【0008】

また、特許文献 2 に示すようなヘルメットスタンドがあるが、これは特許文献 1 のヘルメットスタンドを四方に配置し、更にそれを積み重ねてタワー型としたもので、一箇所に陳列できるヘルメットの数を増やすことができるものであるが、一つのタワーに重量のあるヘルメットを複数係止出来る程の安定性をもたせるため、タワー自体が大きくなる傾向が懸念され、更に販売店が狭い場合などには使用しづらいものであった。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0009】

【特許文献 1】実開昭 62 - 106577 号公報

【特許文献 2】実開昭 62 - 106576 号広報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0010】

そこで、本考案は、一般家庭から小規模販売店更には大規模販売店まで幅広く使用することができ、ヘルメットの係止及び取り外しが容易で、係止時の安定性もあり、更にヘルメット係止時にヘルメットを見栄え良く係止しておくことができるヘルメット用壁掛けフックを提供する。

【課題を解決するための手段】

【0011】

本考案は、上記の課題を解決するために、ヘルメットを壁に掛けるためのヘルメット用壁掛けフックであって、支柱 2 b の一端に壁面に対して垂直で上下に開口したリング部 2 a を備えて前記リング部 2 a にヘルメット 6 を被せることで前記リング部 2 a が前記ヘルメット 6 の内部と円状に接するヘルメット係止部 2 と、前記支柱 2 b の他端に連結され前記壁に固定されるプレート 3 a とからなり、ヘルメット 6 の正面が前記壁とは反対側の真正面から斜め下方を向く状態でヘルメット 6 を係止することを特徴とするヘルメット用壁掛けフックの構成とした。

【0012】

また、前記プレート 3 a を、前記ヘルメット係止部 2 と係止棒 4 a を併設したプレート 3 a としたことを特徴とするヘルメット用壁掛けフックの構成とした。

【0013】

また、前記プレート 3 a を、前記ヘルメット係止部 2 を複数備えたプレート 3 a、又は前記ヘルメット係止部 2 に加え係止棒 4 a を複数備えたプレート 3 a のいずれかのプレート 3 a としたことを特徴とするヘルメット用壁掛けフックの構成とした。

【0014】

更に、前記支柱 2 b を、前記プレート 3 a に略垂直に連結した張り出し棒 2 c と前記張り出し棒 2 c から上方にカーブして先端が前記プレート 3 a 側に位置する起立棒 2 d からなり、前記張り出し棒 2 c と起立棒 2 d の角度が 70° から 75° である支柱 2 b としたことを特徴とするヘルメット用壁掛けフックの構成とした。

【考案の効果】

【0015】

本考案は上記のような構成であるため、誰でも簡単にヘルメットを安定させた状態で係止することができる。

【0016】

また、係止後のヘルメットはヘルメットの正面がやや下方を向いた状態を保つ事ができるため、壁に陳列した際に見栄えがよく、購入者にとってはヘルメット全体のデザインが一目瞭然となる。

【0017】

また、ヘルメット係止部が一つのものから複数のものまでであるため、一般家庭から小規模販売店更には大規模販売店まで利用することができる。

【0018】

更に、予備係止部を設けることにより、ヘルメットと一緒にバイクスーツやグローブなどを係止することや、商品プレートを下げたりすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】本考案であるヘルメット用壁掛けフックの斜視図である。

【図2】本考案であるヘルメット用壁掛けフックの正面図である。

【図3】本考案であるヘルメット用壁掛けフックの背面図である。

【図4】本考案であるヘルメット用壁掛けフックの左側面図である。

【図5】本考案であるヘルメット用壁掛けフックの平面図である。

【図6】本考案であるヘルメット用壁掛けフックの底面図である。

【図7】本考案であるヘルメット用壁掛けフックの使用状態を示した図である。

【図8】本考案であるヘルメット用壁掛けフックの第二実施例の斜視図である。

【図9】本考案であるヘルメット用壁掛けフックの第三実施例及び第四実施例の斜視図である。

【考案を実施するための形態】

【0020】

以下、添付の図面を参照し、本考案の実施の形態について詳細に説明する。

【実施例1】

【0021】

図1は本考案であるヘルメット用壁掛けフックの斜視図、図2はヘルメット用壁掛けフックの正面図、図3はヘルメット用壁掛けフックの背面図、図4はヘルメット用壁掛けフックの左側面図、図5はヘルメット用壁掛けフックの平面図、図6はヘルメット用壁掛けフックの底面図、図7はヘルメット用壁掛けフックの使用状態を示した図である。

【0022】

図1から図6に示すように、本考案であるヘルメット用壁掛けフック1は、ヘルメットを壁に掛けるためのフックであって、支柱2bの一端にリング部2aを備えて前記リング部2aにヘルメット6を被せて係止するヘルメット係止部2と、前記支柱2bの他端に連結され壁に固定されるプレート3aとからなる。

【0023】

前記リング部2aはヘルメット6の係止時にヘルメット6内に位置する部材で、リングの直径は前記ヘルメット6内に設けた頭頂部緩衝部材6aよりも大きいことが好適である。但し、頭頂部緩衝部材6aが大きい場合等の通常とは異なる形状であった場合は、頭頂部緩衝部材6aよりも大きい必要はない。尚、前記リング部2aの外径はおよそ15cm程度を予定しているが、それ以外であってもよい。

【0024】

図1、図4及び図7に示すように、前記支柱2bは略L字状に湾曲しており、ヘルメット用壁掛けフック1を取り付ける壁5に対して垂直となる張り出し棒2cと前記張り出し棒2cの端部から上方に向かって湾曲したのち前記壁側に近づきながら上方に伸びた起立棒2dからなる。

【0025】

図4に示すように、前記張り出し棒2cと起立棒2dの角度は70°から75°程度（図4では73°とした）が好ましいが、特に限定したものではなく、前記張り出し棒2cと起立棒2dの長さによって他の角度となることも考えられる。

【0026】

前記リング部2aは前記起立棒2dの上端に連設されており、このときリング全体が壁5とは反対側に位置するように連設されている。

【0027】

図1から図7に示すように、前記プレート3aは、略長形状の平板である。四隅には取付孔3bを穿設しており、この取付孔3bにネジや釘等を挿通して壁5等にヘルメット用壁掛けフック1を固定する。尚、取付孔3bを穿設したプレート3aを取付部3とした。

【 0 0 2 8 】

但し、前記プレート 3 a の形状は略長形状に限定したものではなく、正四角形、円形、楕円形等その他の形状であってもよく、その形状に合わせて前記取付孔 3 b を設ければよい。

【 0 0 2 9 】

また、前記プレート 3 a は、前記ヘルメット係止部 2 と共に係止棒 4 a を併設したプレート 3 a としてもよい。

【 0 0 3 0 】

前記係止棒 4 a は、前記張り出し棒 2 c と同程度の長さがあればよく、更に先端 4 b がやや上方に向かって湾曲又は垂直に屈曲していると好適であるが、特に限定したものではなく、一直性の棒であってもよい。尚、図面上では係止棒 4 a を予備係止部 4 とした。

【 0 0 3 1 】

図 7 に示すように、前記取付部 3 をネジや釘等で壁に固定して本考案であるヘルメット用壁掛けフック 1 を壁に取り付け、前記リング部 2 a にヘルメット 6 を被せて係止する。

【 0 0 3 2 】

ヘルメット用壁掛けフック 1 に係止したヘルメットの向きは自由に変える事ができるため、壁の高い位置に係止する場合は、ヘルメット 6 の正面シールド部 6 c が斜め下方を向くように係止し、壁の低い位置（例えば目線程度）に係止する場合は、前記正面シールド部 6 c が真正面を向くように係止すれば、購入者にとってはヘルメットのデザインを比べやすくなる。

【 0 0 3 3 】

尚、図 7 の符号 6 b はヘルメット 6 内に備えた側頭部緩衝部材を示し、符号 6 d は顎紐、符号 6 e はヘルメット 6 の内部（空間）を示している。但し、ヘルメット 6 は様々な形状のものがあ、内部構成も異なる場合があり、図 7 で示したヘルメット 6 は一例である。

【 実施例 2 】

【 0 0 3 4 】

図 8 は本考案であるヘルメット用壁掛けフックの第二実施例の斜視図である。

【 0 0 3 5 】

図 8 に示すように、本考案であるヘルメット用壁掛けフック 1 a は、実施例 1 のヘルメット用壁掛けフック 1 とほぼ同じ構成をしている。即ち、ヘルメットを壁に掛けるためのフックであって、支柱 2 b の一端にリング部 2 a を備えて前記リング部 2 a にヘルメット 6 を被せて係止するヘルメット係止部 2 と、前記支柱 2 b の他端に連結され壁に固定されるプレート 3 a とからなる。

【 0 0 3 6 】

従って、ヘルメット用壁掛けフック 1 との違いは、予備係止部 4 が無くヘルメット係止部 2 のみを備えたことである。

【 0 0 3 7 】

リング部 2 a の外径も 15 cm 程度であり、支柱の湾曲角度も 70° ~ 75° 程度を予定しているが、特に限定したものではない。また、プレート 3 a の形状も長形状の平板に限定したものではなく、他の形状であってもよい。

【 実施例 3 】

【 0 0 3 8 】

図 9 (A) は本考案であるヘルメット用壁掛けフックの第三実施例の斜視図である。

【 0 0 3 9 】

図 9 (A) に示すように、ヘルメット用壁掛けフック 1 b は、前記プレート 3 a を、前記ヘルメット係止部 2 を複数備えたプレート 3 a、又は前記ヘルメット係止部 2 に加え係止棒 4 a を複数備えたプレート 3 a のいずれかのプレート 3 a としたヘルメット用壁掛けフックである。

【 0 0 4 0 】

図 9 (A) では、前記プレート 3 a を横長の平板とし、3つのヘルメット係止部 2、2、

2 及び 3 つの予備係止部 4、4、4 並びに 8 つの取付孔 3 b、3 b、3 b・・・を設けたものを一例として示した。

【0041】

尚、前記ヘルメット係止部 2 と予備係止部 4 の設置数を同数にする必要はなく、また、ヘルメット係止部 2 の下以外の場所に予備係止部 4 を設けても良い。また、予備係止部 4 を設けずにヘルメット係止部 2 のみを複数個設けたものでもよい。

【0042】

また、リング部 2 a の外径も 15 cm 程度であり、支柱の湾曲角度も 70°～75°程度を予定しているが、特に限定したものではない。また、プレート 3 a の形状も長方形の平板に限定したものではなく、他の形状であってもよい。

【実施例 4】

【0043】

図 9 (B) は本考案であるヘルメット用壁掛けフックの第四実施例の斜視図である。

【0044】

図 9 (B) に示すように、ヘルメット用壁掛けフック 1 c は、前記プレート 3 a を、前記ヘルメット係止部 2 を複数備えたプレート 3 a、又は前記ヘルメット係止部 2 に加え係止棒 4 a を複数備えたプレート 3 a のいずれかのプレート 3 a としたヘルメット用壁掛けフックである。

【0045】

図 9 (B) では、前記プレート 3 a を縦長の平板とし、3 つのヘルメット係止部 2、2、2 及び 3 つの予備係止部 4、4、4 並びに 8 つの取付孔 3 b、3 b、3 b・・・を設けたものを一例として示した。

【0046】

尚、前記ヘルメット係止部 2 と予備係止部 4 の設置数を同数にする必要はなく、また、ヘルメット係止部 2 の下以外の場所に予備係止部 4 を設けても良い。また、予備係止部 4 を設けずにヘルメット係止部 2 のみを複数個設けたものでもよい。

【0047】

また、リング部 2 a の外径も 15 cm 程度であり、支柱の湾曲角度も 70°～75°程度を予定しているが、特に限定したものではない。また、プレート 3 a の形状も長方形の平板に限定したものではなく、他の形状であってもよい。

【産業上の利用可能性】

【0048】

本考案であるヘルメット用壁掛けフックは、壁に取り付けてヘルメットを見栄え良く綺麗に係止できるフックであるため、一般家庭から小規模店舗並びに大規模店舗まで幅広い領域に多大な貢献をもたらす。

【符号の説明】

【0049】

- 1 ヘルメット用壁掛けフック
- 1 a ヘルメット用壁掛けフック
- 1 b ヘルメット用壁掛けフック
- 1 c ヘルメット用壁掛けフック
- 2 ヘルメット係止部
- 2 a リング部
- 2 b 支柱
- 2 c 張り出し棒
- 2 d 起立棒
- 3 取付部
- 3 a プレート
- 3 b 取付孔
- 4 予備係止部

- 4 a 係止棒
- 4 b 先端
- 5 壁
- 6 ヘルメット
- 6 a 頭頂部緩衝部材
- 6 b 側頭部緩衝部材
- 6 c 正面シールド部
- 6 d 顎紐
- 6 e 内部

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

ヘルメットを壁に掛けるためのヘルメット用壁掛けフックであって、
支柱 2 b の一端に壁面に対して垂直で上下に開口したリング部 2 a を備えて前記リング部 2 a にヘルメット 6 を被せることで前記リング部 2 a が前記ヘルメット 6 の内部と円状に接するヘルメット係止部 2 と、
前記支柱 2 b の他端に連結され前記壁に固定されるプレート 3 a とからなり、
ヘルメット 6 の正面が前記壁とは反対側の真正面から斜め下方を向く状態でヘルメット 6 を係止することを特徴とするヘルメット用壁掛けフック。

【請求項 2】

前記プレート 3 a を、
前記ヘルメット係止部 2 と係止棒 4 a を併設したプレート 3 a としたことを特徴とする請求項 1 に記載のヘルメット用壁掛けフック。

【請求項 3】

前記プレート 3 a を、
前記ヘルメット係止部 2 を複数備えたプレート 3 a 、
又は
前記ヘルメット係止部 2 に加え係止棒 4 a を複数備えたプレート 3 a のいずれかのプレート 3 a としたことを特徴とする
請求項 1 又は請求項 2 のいずれかに記載のヘルメット用壁掛けフック。

【請求項 4】

前記支柱 2 b を
前記プレート 3 a に略垂直に連結した張り出し棒 2 c と前記張り出し棒 2 c から上方にカーブして先端が前記プレート 3 a 側に位置する起立棒 2 d からなり、前記張り出し棒 2 c と起立棒 2 d の角度が 70° から 75° である支柱 2 b としたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項に記載のヘルメット用壁掛けフック。